



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月11日

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所 東・福
 コード番号 3099 URL https://www.imhds.co.jp
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 杉江 俊彦
 問合せ先責任者 (役職名) チーフオフィサー室広報・IR部長 (氏名) 神山 大 (TEL) 03-6730-5003
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	335,701	△41.8	△17,812	—	△17,092	—	△36,786	—
2020年3月期第2四半期	577,288	2.4	13,886	28.3	15,057	22.6	7,595	93.3

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △38,581百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 3,707百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2021年3月期第2四半期	円 銭 △96.74	円 銭 —
2020年3月期第2四半期	19.47	19.38

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2021年3月期第2四半期	百万円 1,166,391	百万円 510,131	% 43.1
2020年3月期	1,223,800	550,161	44.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 502,871百万円 2020年3月期 542,345百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年3月期	円 銭 —	円 銭 6.00	円 銭 —	円 銭 6.00	円 銭 12.00
2021年3月期	—	3.00			
2021年3月期(予想)			—	6.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	815,000	△27.2	△33,000	—	△34,000	—	△45,000	—	△118.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2021年3月期2Q	396,321,454株	2020年3月期	396,100,954株
2021年3月期2Q	15,939,877株	2020年3月期	15,938,328株
2021年3月期2Q	380,258,149株	2020年3月期2Q	390,081,686株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報)	12
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2020年4月1日~2020年9月30日)における業況は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、内外経済が急減速し推移しました。国内個人消費につきましては、緊急事態宣言解除を機に感染症拡大防止と経済活動水準の引き上げの両立を図る中、新規感染者数は増減を繰り返し、持ち直しのペースは緩やかにとどまっています。GoToキャンペーンなどの大規模な経済対策が推進される一方、国境を越えた移動が厳しく制限されることにより、インバウンド需要の低迷が続いており、不透明な厳しい状況にあります。

このような状況の中、当社グループは、お客さまや従業員の安心・安全を第一に考え、緊急事態宣言下において百貨店をはじめ各事業は一時的な営業自粛を余儀なくされました。営業再開後は安心・安全対策を徹底し、新しい生活様式下でお客さまのニーズにお応えするため、新しいコミュニケーションの在り方や新しい価値の提供を検討・実施してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は335,701百万円(前年同四半期比41.8%減)、営業損失は17,812百万円(前年同四半期は営業利益13,886百万円)、経常損失は17,092百万円(前年同四半期は経常利益15,057百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は36,786百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益7,595百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 百貨店業

百貨店業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による4月の緊急事態宣言を受けて、4月、5月の約2ヶ月間、休業または時間短縮営業や部分営業、また、営業再開後も新規感染者数が増減を繰り返す中で国内消費は回復せず、訪日外国人の入国制限が続く中、インバウンドによる売上がほぼ消失し、売上高は大きく前年を下回って推移いたしました。

営業再開後は、全店においてお客さま・従業員の検温の徹底、マスクの着用、定期的な消毒を実施することで、「安心・安全」に関わる取組みを継続しております。店舗におきましては行動自粛の影響により、客数は前年を大きく下回って推移していますが、デジタルの活用を促進することで、ご来店いただかなくても店頭と同様のお買い物やサービスが受けられるよう、様々な取組みを行っております。例えば著名な書道家のリモート販売会で、顧客とアトリエと三越日本橋本店美術売場の3か所をつなぎ、ライブで書きあげて販売する、といった、自宅にしながら販売員と繋がるOne to Oneサービスや、ご来店前にオンライン予約することで、お待たせせずに接客が受けられるサービス等、シームレスな取組みを実施し、ご好評いただきました。また、店舗において、7月にスタートした三越伊勢丹独自の体型計測サービス「マッチパレット」により、3Dスキャンで全身を計測し、体型タイプを導き出す新たな接客方法を取り入れています。また、オンラインの取組みとして、EC事業の強化を図っており、食品宅配の「ISETAN DOOR」やオンライン化粧品サイト「meeco(ミーコ)」が計画を上回り推移しました。

このセグメントにおける売上高は305,153百万円(前年同四半期比43.1%減)、営業損失は21,297百万円(前年同四半期は営業利益6,802百万円)となりました。

② クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業におきましては、当社の持つシステムインフラや優良顧客を基盤にビジネス拡大を目指しております。

株式会社エムアイカードは、グループ百貨店の店舗臨時休業や営業再開後の消費低迷による取扱高減少や、緊急事態宣言を受けた外出自粛の影響で旅行・飲食分野のカード利用の大幅な減少により、売上高が大きく減少しましたが、直近ではG o T oキャンペーンによる旅行・飲食分野における消費回復の兆しもあり、9月以降のカード利用額は改善しています。

このような状況の中、各種利用促進策の一部停止や、店舗臨時休業に伴う変動コストの減少、コスト削減の実施により、販売管理費は計画比、前年比とも削減いたしました。

このセグメントにおける売上高は15,055百万円（前年同四半期比24.3%減）、営業利益は1,285百万円（前年同四半期比51.3%減）となりました。

③ 不動産業

不動産業におきましては、グループの保有する国内外の優良不動産を活用した収益性のある事業機会の創出に向けた検討を進めております。

株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザインは、商業施設事業において、新型コロナウイルス感染症の影響によるテナントへの賃料減免を行いました。建装事業や環境創造事業においては、前年に大型建装工事があり、その反動により前年を下回っておりますが、原価引き下げ交渉や販売管理費の削減により、営業利益は計画通り推移しました。

株式会社三越伊勢丹不動産は、賃貸家賃による安定収入により、概ね計画通り売上高、営業利益ともに推移しました。

このセグメントにおける売上高は14,897百万円（前年同四半期比10.9%減）、営業利益は2,997百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

④ その他

その他の事業におきましては、お客さまのニーズにお応えする新たな価値提供を目指しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大変厳しい状況下にて推移いたしました。

旅行事業におきましては、株式会社三越伊勢丹ニコウトラベルが4月の緊急事態宣言を受け、5月末まで事業所を臨時休業、すべてのツアーが催行中止となりました。6月より国内ツアーが規模を縮小して催行再開したものの、主力の海外ツアー催行の目途がたたず、厳しい経営環境が続いております。

美容事業は営業自粛により、売上高が大幅に減少しましたが、5月後半より順次営業再開し、客数が徐々に回復し、国内・海外（台湾）とも売上は回復傾向にあります。また、経営面では不採算店舗の統廃合や構造改革を進め、販売管理費の削減に努めております。

物流子会社の株式会社三越伊勢丹ビジネス・サポートは、グループ百貨店の店舗臨時休業の影響が響き、売上高は前年を下回ったものの、グループ外新規EC事業者の受注や百貨店のECの伸びにより計画を上回りました。

また、新規に連結子会社となりました株式会社三越伊勢丹イノベーションズにおいて株式の売却による収益が売上高に計上されております。

このセグメントにおける売上高は29,145百万円（前年同四半期比29.7%減）、営業損失は723百万円（前年同四半期は営業利益1,148百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,166,391百万円となり、前連結会計年度末に比べ57,409百万円減少しました。これは主に、新型コロナウイルス感染症による売上高減少により、現金及び預金、受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものです。

負債合計では656,259百万円となり、前連結会計年度末から17,379百万円減少しました。これは主に、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少と同様、新型コロナウイルス感染症による仕入高の減少により、支払手形及び買掛金が減少したことなどによるものです。

また、純資産は510,131百万円となり、前連結会計年度末から40,030百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことなどによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、16,718百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間に比べ、支出が23,217百万円増加しました。これは主に、新型コロナウイルス感染症による大幅な売上高減少などにより、税金等調整前四半期純損失を計上したことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、17,937百万円の支出となり、前第2四半期連結累計期間に比べ、支出が1,383百万円減少しました。これは主に、株式会社三越伊勢丹が保有する不動産の売却収入を計上したことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、6,714百万円の収入となり、前第2四半期連結累計期間に比べ、収入が7,741百万円減少しました。これは主に、新型コロナウイルス感染症による売上高減少などにより営業キャッシュ・フローが減少したものの、本年3月においてコマーシャル・ペーパーの追加発行により、前連結会計年度末までに300億円の資金調達を実施したことから、当第2四半期連結累計期間の資金調達額が抑制されたことなどによるものです。

上記の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、28,501百万円減少し、48,157百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の結果、及び子会社株式の譲渡による特別利益の計上予定等を踏まえて、2020年7月29日に公表いたしました連結業績予想（売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益）を下記のとおり修正しております。

なお、子会社株式の譲渡につきましては、本日公表いたしました「子会社の株式譲渡に関するお知らせ」をご覧ください。

2021年3月期通期（2020年4月1日～2021年3月31日）連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	823,000	△38,000	△41,000	△60,000	△157.81
今回発表予想 (B)	815,000	△33,000	△34,000	△45,000	△118.34
増減額 (B-A)	△8,000	5,000	7,000	15,000	—
増減率 (%)	△1.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	1,119,191	15,679	19,771	△11,187	△28.90

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	74,301	45,995
受取手形及び売掛金	119,441	107,639
有価証券	1,718	697
商品及び製品	38,153	34,992
仕掛品	2,797	1,711
原材料及び貯蔵品	629	622
その他	39,007	36,342
貸倒引当金	△3,736	△4,271
流動資産合計	272,313	223,729
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	170,907	169,869
土地	533,433	534,608
その他（純額）	30,631	28,676
有形固定資産合計	734,972	733,154
無形固定資産		
ソフトウェア	18,044	15,757
のれん	15	11
その他	22,702	22,678
無形固定資産合計	40,762	38,447
投資その他の資産		
投資有価証券	108,743	106,177
その他	67,048	64,939
貸倒引当金	△173	△173
投資その他の資産合計	175,618	170,943
固定資産合計	951,353	942,545
繰延資産		
社債発行費	133	116
繰延資産合計	133	116
資産合計	1,223,800	1,166,391

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	79,742	72,190
短期借入金	21,401	21,264
コマーシャル・ペーパー	50,000	50,000
未払法人税等	2,897	1,929
商品券回収損引当金	32,799	32,245
引当金	20,864	16,436
その他	173,607	158,149
流動負債合計	381,313	352,216
固定負債		
社債	40,000	40,000
長期借入金	64,146	72,800
繰延税金負債	128,011	132,360
退職給付に係る負債	36,150	36,455
引当金	242	136
持分法適用に伴う負債	1,651	2,517
その他	22,123	19,774
固定負債合計	292,325	304,043
負債合計	673,639	656,259
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,790	50,917
資本剰余金	322,985	324,020
利益剰余金	183,644	144,299
自己株式	△19,304	△19,305
株主資本合計	538,115	499,930
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,523	731
繰延ヘッジ損益	43	42
為替換算調整勘定	4,625	4,255
退職給付に係る調整累計額	△1,962	△2,088
その他の包括利益累計額合計	4,229	2,940
新株予約権	1,857	1,605
非支配株主持分	5,958	5,654
純資産合計	550,161	510,131
負債純資産合計	1,223,800	1,166,391

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	577,288	335,701
売上原価	409,385	239,628
売上総利益	167,903	96,072
販売費及び一般管理費	154,016	113,884
営業利益又は営業損失(△)	13,886	△17,812
営業外収益		
受取利息	370	265
受取配当金	461	389
持分法による投資利益	1,041	—
固定資産受贈益	1,534	2,049
その他	613	1,170
営業外収益合計	4,020	3,874
営業外費用		
支払利息	450	447
持分法による投資損失	—	19
固定資産除却損	647	998
その他	1,751	1,689
営業外費用合計	2,850	3,154
経常利益又は経常損失(△)	15,057	△17,092
特別利益		
雇用調整助成金等	—	4,894
事業譲渡益	649	—
その他	14	—
特別利益合計	663	4,894
特別損失		
固定資産処分損	1,723	697
減損損失	400	852
投資有価証券評価損	—	1,227
店舗閉鎖損失	949	879
事業構造改善費用	1,601	2,507
新型コロナウイルス感染症による損失	—	12,672
その他	—	349
特別損失合計	4,675	19,186
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	11,046	△31,383
法人税等	3,328	5,667
四半期純利益又は四半期純損失(△)	7,717	△37,050
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	121	△264
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	7,595	△36,786

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	7,717	△37,050
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,300	700
繰延ヘッジ損益	△5	△1
為替換算調整勘定	△642	△940
退職給付に係る調整額	129	△125
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,191	△1,164
その他の包括利益合計	△4,010	△1,530
四半期包括利益	3,707	△38,581
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,670	△38,075
非支配株主に係る四半期包括利益	36	△506

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	11,046	△31,383
減価償却費	14,874	14,218
減損損失	579	1,057
のれん償却額	3	3
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,673	△4,406
貸倒引当金の増減額(△は減少)	120	536
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	50	272
受取利息及び受取配当金	△831	△655
支払利息	450	447
持分法による投資損益(△は益)	△1,041	19
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,227
雇用調整助成金等	—	△4,894
事業譲渡損益(△は益)	△649	—
売上債権の増減額(△は増加)	△9,015	13,443
たな卸資産の増減額(△は増加)	725	4,033
仕入債務の増減額(△は減少)	2,257	△7,181
未払費用の増減額(△は減少)	△3,757	△1,853
未払金の増減額(△は減少)	△2,768	△7,997
その他	△511	△499
小計	6,860	△23,610
利息及び配当金の受取額	3,102	3,111
利息の支払額	△464	△439
雇用調整助成金等の受取額	—	4,830
法人税等の支払額	△2,998	△610
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,499	△16,718
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△20	△20
定期預金の払戻による収入	20	20
有形固定資産の取得による支出	△16,808	△17,999
有形固定資産の売却による収入	0	1,542
無形固定資産の取得による支出	△2,992	△2,168
敷金及び保証金の回収による収入	2,116	1,105
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△2,448	△1,597
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,180	1,429
事業譲渡による収入	898	—
その他	△1,267	△250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,321	△17,937

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,279	△14
長期借入れによる収入	3,800	10,040
長期借入金の返済による支出	△8,000	—
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	26,000	—
配当金の支払額	△2,332	△2,249
リース債務の返済による支出	△979	△1,061
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△661	—
その他	△91	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,456	6,714
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,212	△28,394
現金及び現金同等物の期首残高	50,147	76,659
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△0	△106
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	79	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	51,438	48,157

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響については今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、当第2四半期の連結財務諸表作成時には外部情報を含んだ入手可能な情報等を踏まえ、当該影響が2021年3月末頃まで続くなどの仮定を置き、当第2四半期連結会計期間の繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。なお、第1四半期連結会計期間の四半期報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)に記載した内容から、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	百貨店業	クレジット・金融・ 友の会業	不動産業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	534,273	11,960	14,734	560,968	16,320	577,288	—	577,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,977	7,933	1,987	11,898	25,118	37,016	△37,016	—
計	536,250	19,894	16,721	572,866	41,438	614,304	△37,016	577,288
セグメント利益	6,802	2,639	3,076	12,518	1,148	13,666	220	13,886

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業、美容業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額220百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	百貨店業	クレジット・ 金融・ 友の会業	不動産業	計		
減損損失	517	—	—	517	61	579

(注) 減損損失のうち179百万円は店舗閉鎖損失に含まれております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	百貨店業	クレジット・ 金融・ 友の会業	不動産業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	303,530	10,357	13,519	327,407	8,293	335,701	—	335,701
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,623	4,697	1,377	7,698	20,851	28,550	△28,550	—
計	305,153	15,055	14,897	335,106	29,145	364,251	△28,550	335,701
セグメント利益又は損失 (△)	△21,297	1,285	2,997	△17,015	△723	△17,738	△73	△17,812

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業、美容業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△73百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	百貨店業	クレジット・ 金融・ 友の会業	不動産業	計		
減損損失	114	72	—	186	871	1,057

(注) 減損損失のうち132百万円は店舗閉鎖損失に、72百万円は特別損失のその他に含まれております。

(重要な後発事象)

(子会社株式の譲渡)

当社は、2020年11月11日開催の執行役会において、当社の完全子会社である株式会社三越伊勢丹（以下、IM）が保有する連結子会社の株式会社三越伊勢丹不動産（以下、IMRE）の全株式（発行済株式数の100.0%）をThe Blackstone Group Inc. (NYSE:BX)とその関連会社が運用又は投資アドバイザーを務める特定のファンド（以下、総称してBlackstone）が設立した法人であるエチゴ合同会社（以下、エチゴ）に譲渡することを決議いたしました。

(1) 株式譲渡の理由

IMREは、自社で所有する物件の賃貸営業やマンションの分譲を中心に事業を展開する一方、不動産オーナーが所有する物件のサブリース事業・賃貸管理事業や管理組合事業にも取り組んでまいりました。

当社は、グループ3ヵ年計画における重点取組の一つとして、「不動産事業の強化」を掲げており、グループ保有不動産の有効活用による中長期的な収益拡大に向けた事業の検討を進めています。

具体的には、保有不動産を中心に商業を核とした複合用途化に向けた取り組みを推進し、今後は当該分野に経営資源を重点的に配分していく方針です。

このような当社グループ方針のもと、Blackstoneが有する日本の不動産業界における経営の専門知識及び実績を評価し、IMREのさらなる発展のために、今般、IMが保有するIMRE全株式をエチゴに譲渡することといたしました。

(2) 株式譲渡の相手先の名称

エチゴ合同会社

(3) 株式譲渡の時期

- ① 契約締結日 2020年11月11日
- ② 株式譲渡実行日 2021年1月4日（予定）

(4) 当該子会社の名称、事業内容及び当社との取引関係

- ① 名称 株式会社三越伊勢丹不動産
- ② 事業内容 不動産賃貸、不動産賃貸管理
- ③ 当社との取引関係 当社および連結子会社との間で業務委託等の取引関係があります。

(5) 譲渡株式数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の所有株式数

- ① 譲渡株式数 192,542株（議決権所有割合：100.0%）
- ② 譲渡価額 譲渡相手先との譲渡契約における守秘義務を踏まえ、開示を差し控えさせていただきます。当該価額については、譲渡相手先との交渉により決定しており、公正価額と認識しております。
- ③ 譲渡損益 2021年3月期第4四半連結会計期間において、約71億円を関係会社株式売却益として特別利益に計上する見込みです。
- ④ 譲渡後の所有株式数 0株（議決権所有割合：0%）